



横浜市立相沢小学校

2月号

# 学校だより

令和2年1月31日

## 夢をかなえて ドラえもん

副校長 今野 敏晴

今年は、ドラえもんが、「小学1年生」など6誌で連載がスタートして50周年になるそうです。それを記念して昨年末にテレビ放映された「ドラえもん50周年 みんなみんなかなえてくれる♪～ひみつ道具と科学～」という番組を見ました。50年間でドラえもんの四次元ポケットから取り出されたひみつ道具は1600種類以上になるそうですが、本校でも今年度購入した音声翻訳機（ドラえもんでは、ほんやくコンニャク）など最新の科学で夢の道具が次々と実現している様子に驚きました。

2年生が、国語の時間に「あったらいいなこんなもの」という単元に取り組み、ドラえもんの秘密道具を参考として、自分で考えた道具について、相手に分かるように紹介の仕方を工夫して発表していました。国語の時間ですので、話す事柄の順序や声の大きさ・速さ、丁寧な言葉遣い、聞き方などの指導に重きを置くのですが、子どもらしい夢のある道具の数々に感心しました。子ども達の考えた道具のいくつかはきっと何年後かには実現していくのだと思います。国語に限らずどの教科においても試行錯誤を促すなど想像力や創造力を育む授業が多くなっています。

科学や情報通信技術が加速度的に革新され、グローバル化が進むなど変化の激しいこれからの社会を生きていくためには、想像力と創造力が大切だと言われています。想像力とは、様々なことをイメージすること、「夢をつくる力」です。創造力とは、新しいことに挑戦し、新しいものを創りだすこと、「夢を実現する力」です。今後は、想像力と創造力を働かせながら様々な課題を解決し、よりよい自己や新たな価値をつくっていかねければなりません。

さて、夢についてですが、夢には多くの意味があり、とらえ方もまちまちです。睡眠中の夢もあれば、現実から離れたファンタジー、将来なりたい仕事や目標という意味もあります。ドラえもんの秘密道具のように実現すればいいと思っている事柄という意味にも使われます。夢の時間というように夢はかなわないこと、あきらめなければならないことに使う場合もあります。

しかし、われわれが教育的に使う夢は、どんな夢でしょう。一つは、「将来こんな仕事をしてみたい、こんな人になりたい」という夢です。将来なりたい自分を想像し、夢というキーワードにして語り実現を目指すことです。もう一つは、ドラえもんの秘密道具のようなものを考え、実現させていく想像力と創造力です。人間にしか考えられない、人や環境に優しい道具や社会のシステムをつくってほしいです。

夢を実現している人たちに共通することは、夢は叶えるもの、そして絶対にあきらめないという強い意志が感じられるところです。夢を実現する姿をありありと思い描き、それを長く思い続ける。そして、それが「現実には起きうることなのだ」ということを心の中に持ち続けて努力を重ねる。こういう力がある人は、夢がだんだんと本当になり、じわじわと近づいてくるのだと思います。

今年の東京オリンピック・パラリンピックでは、AIが制御する自動運転の車が走り回ったり、夢を実現しようとする選手の姿に感動したりと夢の舞台が楽しみです。2020年を五輪開催の年とするだけでなく、新たな成長に向かうターゲットとして位置づけ、日本社会を元気にするために文部科学省がまとめた「夢ビジョン2020」の中では、「夢を描く力（自ら学習し、創造的に考える力）を育む、夢を実現する力（自立して行動する力）を鍛える、夢を応援する力（優しさ、思いやり、助け合う絆）を育む」ことを国民全体で意識してほしいと書かれていました。

想像力と創造力を育み、子ども達の夢が実現に近づくよう一層のご支援をよろしくお願いいたします。